

やながわ

YANAGAWA 2012.

No.165

2月1日

今号の内容

◆今号の内容	ページ
◆市消防出初式	2~3
◆要援護者登録を受付中	4~5
◆柳川雛祭り さげもんめぐり	6~7
◆学校適正規模・適正配置化検討委員会答申ほか	8~9
◆高齢者保健福祉計画(案)意見募集ほか	10
◆城堀の水落ちは2月20~29日ほか	11
◆市民のひろば(12-13) ◆川柳(13) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(14-15) ◆情報わいど(16-21) ◆がんばったね・ぬくもり(22) ◆柳川にこの人あり 中本計三巡査長(22) ◆もちふみデビュー(23) ◆保健ガイド(24-25) ◆新市史抄片(26)	



迫力の火消し 磨いた腕を披露

市消防出初式が1月8日、市民三橋グラウンドで開かれました。市消防団第16分団の団員が、ポンプ車操法を実演。この日のために、昨年10月から訓練を重ねてきた団員たちは、迫力あるポンプ車操法を披露しました。訓練の成果を発揮した団員たちに、会場から大きな拍手が送られました。出初め式の詳細は2、3ページで紹介しています。

新 市史抄片

83

海を渡った『三忠伝』

柳川藩の儒者、安東直菴(二六三二-一七〇二)は多くの著作を残しています。その代表作の一つに『三忠伝』が挙げられます。武士の規範とするため、平重盛・藤原藤房・楠正成の忠節を伝えた作品です。貞享元(一六八四)年に刊行されて以来、江戸時代を通して広く読まれた様子は、その現存数の多さにも反映されています。また伝習館文庫の徳富蘇峰旧蔵『三忠伝』に記された「著作之尤者也」という蘇峰の言葉からは、作品に対する高い評価がうかがえます。



【上】三忠伝を李氏朝鮮に渡るまでのやりとりが書かれている『御在国毎日』貞享四年七月六日条(長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵)
【右】長崎県対馬市厳原町の海岸寺にある賀島兵介の墓

と思われる『三忠伝』ですが、その読者は当時の李氏朝鮮にまで及んでいたというのを対馬藩の藩政記録「毎日記」によつて知ることが出来ます。「毎日記」とは、対馬国元・江戸・朝鮮倭館(朝鮮の日本人居留区)などの各所で記録された江戸時代のほぼ全期にわたる藩の業務日誌であり、朝鮮との貿易を担っていた対馬藩の性格上、日朝外交史料という意味でも近世史における第一級史料です。

その貞享四(一六八七)年七月六日の記事に賀島兵介(対馬藩大目付役)から安島知(朝鮮の日本語通訳)へ『三忠伝』が渡る際、手続き上の不備から、再度調査した一件が記録されています。この前年倭館に携えた『三忠

伝』を「安島知見申候而大望之由」、つまり日本の出版物を見た朝鮮側の安氏の強い希望で、『三忠伝相調』よ、という運びになり、調査の末に許可されるまでのやりとりが記されています。朝鮮知識人の日本に対する関心を示す一件でもあるでしょう。

ところで、『三忠伝』を調達した対馬藩士の賀島兵介ですが、延宝三(一六七五)年から貞享二(一六八五)年まで田代領(現鳥栖市)の副代官だった人物です。善政を敷いたことで領民の信頼も厚く、今も命日には「賀島祭」が催されています。また兵介は父、賀島成尚の墓誌銘を省菴に依頼したことなどが分かっていますが、両者の具体的な交友関係までは分かっていません。残念なことには墓誌そのものの所在も不明で、『省菴先生遺集』巻七所載の「賀島成尚墓誌銘」が伝えられるだけです。

貞享四年七月六日の記事は取引に生じた不備のために記録されましたが、その結果、省菴と兵介の接点、そして『三忠伝』の渡朝という興味深い出来事を、我々に伝えてくれる貴重な史料となったのです。

市史編さん係囁託 阿比留章子

問い合わせ 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

編集後記

●この仕事をしていると、一般の人が入れない場所を取材ができる。1月はサルの捕獲や女優の桜庭ななみさんの記者会見など、楽しい取材が多かった。いい仕事だと思っただけ、広報担当を志す奇特な職員が存在を知らない。土日返上の取材や連日の残業が、魅力をスポイルしている?

●夜、自転車に乗って転倒した。仕事が終わって帰ろうとしたところ、駐輪場そばの車止めポールにペダルが引っかかり勢いよく前転。今まで真っ暗な夜でもポールに当たるとはなかった。完全に油断である。けがは軽傷だったが、年始から幸先が、。回払い、してもらおうかな。(賢治)

●先月公開された映画「ドットハック」。仕事で公開より一足早く見る事ができた。ゲームなどでドットハックシリーズの経験はなかったが、内容を理解できるか不安だったが、とても面白かった。舞台が柳川なので市内の人は特に楽しめること間違いなし。ぜひご覧あれ。(和久)

平成23年12月末現在

人のうごき

- 人口 71,561人 (前月比-84)
- 男 33,901人 (-26)
- 女 37,660人 (-58)
- 出生 44人、死亡 86人
- 転入 80人、転出 122人
- 世帯数 24,632世帯 (-22)